

令和4年度
事業計画書

Project report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要	…2
建学の精神	
教育方針	
設置する学校	

令和4年度の主要な事業計画

高田短期大学	…3～10
1、中・長期目標(令和4年度～令和8年度)	
2、令和4年度重点目標	
3、教育・研究活動	
4、地域社会貢献事業・公開講座など	
仏教教育研究センター	
育児文化研究センター	
キャリア研究センター	
介護福祉研究センター	
その他	

高田中・高等学校	…11～14
1、命の尊さを考える教育推進事業	
2、きめ細やかな学習指導推進事業	
3、キャリア教育推進事業	
4、生徒会活動の推進	
5、部活動の推進事業	
6、危機管理・安全教育への取り組みの推進事業	
7、国際理解教育推進事業	
8、教職員海外研修推進事業	
9、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業	
10、新任教職員研修事業	
11、生徒募集推進事業	
12、その他	

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。

中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

設置する学校

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町2843

高田短期大学

1. 中・長期目標（令和4年度～令和8年度）

1. 建学の精神の具現化・実践とその涵養
2. 学生募集と大学運営
 - 各学科募集定員の充足と確保
 - 少子化による受験生の激減に対する戦略
 - 短期大学離れの傾向に伴い、魅力と活性のある大学運営とその発信
 - 教員の研究による資質向上と学生の学力三要素による資質向上
 - 子ども学科・キャリア育成学科オフィスワークコースにおける公務員合格者の増加
 - キャリア育成学科介護福祉コースにおける介護福祉士の合格者の増加
 - 外国人留学生の日本語能力試験N2の合格者の増加
 - 高大教育交流の推進
3. 時代・社会の変化に即応した教育システムの改革・改善
 - 教育の理念・目的・目標等の不断の見直し・検討
 - 「三つのポリシー」の不断の見直し・検討とそれに基づく教育の実施
 - 学修成果の具体的な把握・評価方法、より効果的な公示方法等の検討
 - IRの推進
 - 学修環境の不断の改善
4. エンロールメント・マネジメント促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革
 - 学生支援における視座を高め、教員と職員が協力し合い（教職協働）、切磋琢磨し合う教育環境の構築
 - 縦割りに終始しがちな各部署の業務に横のつながりをもたせ、各部署の情報を共有しやすくし、学生の立場に立ったトータルなサービスを遂行
5. ニーズに対応した地域連携の充実
6. 周辺環境（山林）の有効活用

2. 令和4年度重点目標

1. 学生募集のあり方の検討と募集定員の確保
 - PR戦略の不断の検討
 - 学校訪問のあり方の再検討と充実
 - 高大教育交流の推進
2. 「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進
 - 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」に基づく教育の実施

- 「シラバス」と「カリキュラム・マップ」に基づく授業の展開
- 「D P到達度評価ルーブリック」による学生の自己評価とI Rの実施
- 「アセスメント・ポリシー」の再検討（特にG P Aに対応した評価の見直し）
- I C Tを活用した教育の推進（「m a n a b a」の積極的利用）
 - 遠隔授業の充実
 - 「アクティブラーニング型授業」の推進
 - 学修成果の可視化（ルーブリック・学修ポートフォリオ等）と学生への提示の推進

3. 新型コロナ対策

- 感染対策の徹底と学修機会の確保をはじめとする充実した学生生活の両立

4. 全教職員一丸となつてのきめ細かな学生支援の充実

- 学修支援
- 学生支援委員会を中心とした多様な学生への支援の充実
- キャリア支援（就職支援）
 - 多様化する学生への支援、コロナ禍における支援の充実
 - 公務員試験対策の充実
- 外国人留学生への支援
 - 日本語能力試験対策の充実

5. 「たかたんフォレスト のびのびひろば」の運営体制の確立と自然保育の充実

6. キャリア育成学科オフィスワークコースの魅力あるカリキュラムの策定と地域連携プロジェクトの推進

7. 介護作文コンクール募集による介護福祉への理解を深める運動の深化

8. 学務事務システムの円滑な移行

9. 環境d a yの実践

3. 教育・研究活動

（1）学士力向上を目指した改善活動（学務委員会、教務課）

学士課程で身に付けるべき学修成果（「学士力」）の達成を目指します。

学生が主体的・自律的に「ディプロマ・ポリシー」に定めた「到達目標（学修成果）」に到達できるよう、履修マップの活用等により授業の質的向上を図るとともに、学生自らが学修成果を自己点検・評価する取組が可能となる「高等教育における内部質保証システム」の確立を推進します。

また、全学生に配布したノート型パソコン等を活用して教育支援システム「m a n a b a」等を利用したオンライン授業環境の整備を進め、受動的ではなく能動的な学修力の向上を目指します。同時に対面授業環境にも十分に配慮し、オンライン授業と併せて学内の感染症拡大防止対策をより万全なものとするよう努めます。

(2) 主体性・協調性を育む短大生活支援（学務委員会、学生課等事務局）

昨年に引き続き、コロナ時代の新生活様式を意識した学生生活を提案していきます。

高短生としての2年間で心身ともに健やかなキャンパスライフとなるよう、全教職員が一丸となり、多方面からの支援を行う取り組みを進めます。明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指します。

また、学生の自主的かつ主体的な活動ができる環境作りを行うため、学生自治会を中心として、感染症対策に十分配慮のうえ学内行事及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努めるとともに、部員と顧問間のコミュニケーションがより一層深まるよう支援します。

さらに、外国人留学生支援室を中心としたアドバイザー制度を充実させて、外国人留学生が卒業後、地域社会で活躍できるよう日本語能力の向上をはじめ、様々な知識経験の修得ができるよう支援の充実を図ります。

(3) キャリア教育の充実（キャリア支援委員会、キャリア支援センター）

教職協働をより一層進め、学生一人ひとりに応じたきめ細かなキャリア支援に努めます。キャリア支援委員会での協議や「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」の活用により、教職員間の情報共有と意思疎通を図ります。

また、就職活動の早期化や公務員試験の早期実施に対応するため、計画的な支援を進めます。そのため、「就職講座」、「キャリアスタディ」、「公務員講座」等の取組を見直すほか、公務員希望者対象のガイダンスを実施するなど、工夫・改善を図ります。

さらに、多様化する学生に対して、学生支援委員会や外部関係機関等と協力し、保護者との連携も視野に入れて、支援の充実に努めます。

(4) 学生募集と高大接続の推進（入試広報委員会、入試広報課）

学生募集に関して各学科の定員確保を最優先課題として取り組みます。そのためには各高校の進路指導部と連携を密にして必要かつ適切な情報交流を行います。

高大教育交流連携校との模擬授業等の交流事業については、より深い学びが提供できるよう内容の充実を図ります。また業者主催のガイダンスや特別（体験・模擬）授業、その他見学会などに対しては、高校生と直接面談する機会を極力増やしていきます。

アスリート入試（女子サッカー部・女子バレー部）については競技実績だけでなく、各部の監督や学科コースと連携し本学での学修意欲の高い学生の確保に努めます。また外国人留学生についても近隣の日本語学校等との連携を強化し、日本語能力、学修意欲の高い留学生の確保に努めるとともに、目的意識をしっかりと持った留学生の確保に努めます。

4. 地域社会貢献事業・公開講座など

仏教教育研究センター

仏教教育研究センターの令和4年度の事業は、公開講座「高田本山寄附講座」として、平成24年度から開講した仏教基礎講座と平成25年度から開講した仏教専門講座、そして研究会および寄贈図書 の整理などを継続して開催します。

(1) 公開講座の開催

本年度は、本学学長であり当センター研究員である梅林 久高氏と当センター研究員である佐波 真氏が講師を務め、真宗高田派本山高田会館大ホールにおいて、年2回の前期後期に分けて仏教教育

研究センター公開講座を次のとおり計画しています。

○第1回（前期）

日 時：7月13日（水） 13：30～15：30

講 師：梅林 久高 氏（当センター研究員、本学学長、真宗高田派正念寺住職）

テーマ：聖徳太子への親鸞聖人の讃仰

内 容：親鸞聖人の生涯の中で六角堂参籠の時、聖徳太子の示現により法然上人との出遭いが結実したことをはじめ、太子の教えが大きな影響を与えています。また、聖人は「皇太子聖徳奉讃」七十五首和讃などを著述され讃仰されています。そこで親鸞聖人の太子への讃仰の原点を当時流行していた太子信仰などの様々な視点を踏まえて探究していきたいと思います。

会 場：真宗高田派本山 高田会館 大ホール

○第2回（後期）

日 時：10月14日（金） 13：30～15：30

講 師：佐波 真 氏（当センター研究員、真宗高田派明通寺住職）

テーマ：親鸞聖人といなかの人々 ―和語聖教をめぐって―

内 容：親鸞聖人と関東のお同行は、お手紙のやりとりや関東から親鸞聖人の許を訪ねたりして交流を深めた。そのお手紙からは、関東のお同行は和讃に親しんでいたことが窺える。『唯信鈔文意』などの跋文には、「同じことをとりかえしとりかえしかきつけたり」とある。和語聖教では、和讃にある教えについて言葉を尽くし丁寧に説かれている。これらを手がかりに、親鸞聖人が関東のお同行に伝えたかったことの一端を尋ねてみたい。

会 場：真宗高田派本山 高田会館 大ホール

（2）高田本山寄附講座の開催

○仏教基礎講座 8月22日（月）～26日（金）

仏 教 学	栗原 廣海 研究員	（真宗高田派誓元寺住職）
真 宗 学	松山 智道 研究員	（高田短期大学特任講師）
仏 教 史	金信 昌樹 研究員	（真宗高田派善昌寺住職）
真 宗 史	清水谷正尊 研究員	（高田短期大学非常勤講師）
高田の歴史と法宝物	新 光晴 研究員	（専修寺宝物館主幹）

○仏教専門講座 4月22日（金）9：00～

仏教学概説	安藤 章仁 研究員	（高田中・高等学校非常勤講師）
仏教学講読Ⅰ	清水谷正尊 研究員	（高田短期大学非常勤講師）
真宗学講読Ⅰ	金信 昌樹 研究員	（真宗高田派善昌寺住職）
真宗学講読Ⅲ	佐波 真 研究員	（真宗高田派明通寺住職）
高田の宗風	島 義恵 研究員	（真宗高田派聖洞寺住職）

（3）研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

昨年度に引き続き、『顕正流義鈔』を活字化して頭注・補注・現代語訳を附したものの、真筆西岸寺本の影印版、他真慧上人関係書籍、事跡の写真。研究論文、年表等を内容とする研究書の発行に向けて研究会を進めます。

育児文化研究センター

行政や地域子育て支援団体など関係機関との連携による、子育て支援活動の充実および育児文化に関する研究活動の充実と発信に努めます。また、学生の資質向上のための支援を行います。

(1) 研究活動

- 「育児文化研究紀要 第18号」 令和5年3月発行予定
- 定例研究会（年3回）
 - 第61回 7月 5日（火） 開催予定
 - 第62回 10月27日（木） 開催予定
 - 第63回 令和5年 2月 6日（月） 開催予定
- グループ研究会活動 各グループ年間6～8回 開催予定
 - グループ① 子育て支援のひろばについて
 - グループ② おやこひろばたかたんにおける学生の学び
 - グループ③ 野外活動保育とこれからの保育者育成
 - グループ④ 乳幼児親子の生活と支援
 - グループ⑤ 子どもと絵本

(2) 地域子育て支援事業

- 地域開放事業 子育て支援ひろば「おやこひろば たかたん」の実施
基本毎週月曜日 10:00～12:00 年間70日程度 開催予定
- 子育て講座（予約制）の実施
ひろば開催日に月1回 年間10回 開催予定
- 子育て相談（予約制）の実施
4領域（発達・健康・就学前教育・小学校教育）の専門教員により月1回 開催日設定
- 主催講演会の実施
保育・子育てに関連した講演会またはセミナーの開催
- 子育て情報の発信
情報誌さらさら（隔月発刊）への子育て情報掲載など
- ひろば関係研修会 年2回 8月、令和5年1月 開催予定

(3) 地域連携子育て支援事業

- 津市委託事業「子育てママのホッとひろば事業」企画・運営実施 年4回 開催予定
- みえ次世代育成応援ネットワーク事業への運営委員参画・事業参加
 - 子育て応援わくわくフェスタ
 - ありがとうの一行詩コンクール
 - みえの子ども「夢実現」応援プロジェクト 等
- みえこどもの城連携協定による事業 年間2回程度 開催予定
 - 学生による子ども・親子向けイベント
 - 「みんなあつまれ たかたん あそびひろば」の企画・運営支援

(4) 学生支援事業

- 学生の保育、子育てに関係する地域ボランティア「子育て応援隊」の活動支援
- 子育て広場応援サークル「たんたんクラブ」の活動支援

(5) センター便り「いくぶん 第27号」 8月 発行予定

「おやこひろば たかたん」およびセンター事業報告、研究員紹介等を掲載

(6) 会議

- 運営委員会 拡大運営委員会を年1回 開催予定
学内運営委員会は月1回 開催予定
- センター会議 (年2回) 前期 5月11日(水)
後期 12月 2日(金) 開催予定
- ひろば運営会議 月1回 開催予定

キャリア研究センター

キャリア研究センターは人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する研究を行うことで社会と連携し、地域貢献ならびにキャリア教育に寄与することを目的としており、令和4年度は以下の事業を計画しています。

1. 事業の実施

(1) 人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する研究活動及び社会連携

- 地元行政、企業等との連携事業

以下と連携し、人材育成等に関する事業を実施する

- ・百五銀行・百五総合研究所
- ・公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
- ・津市
- ・三重県信用保証協会
- ・一身田商工振興会

予定実施事業

- ・一身田寺内町再活性化への取り組み(津市、一身田商工振興会との連携事業)
- ・企業と学生によるワークショップ(百五銀行・百五総合研究所との共催)
- ・企業経営・金融リテラシーに関する学生への講義(三重県信用保証協会との連携事業)
- ・公益財団法人三重こどもわかもの育成財団との連携事業

(2) (地域に向けた) キャリア形成の支援、研修及び交流活動

- 中央公民館との共催事業

シニアパソコン教室(Zoom入門講座) 令和4年 実施時期調整中

- 就業支援セミナー(会場:高田短期大学)

- ①クレーム対応基礎講座 令和4年8月17日(水)
- ②マーケティング講座 令和5年2月16日(木)

(3) 研究紀要、情報誌等の発行

○「高田短期大学キャリア研究センター年報・紀要」第9号の発行

①スケジュール

執筆希望書提出：9月

原稿提出：令和5年2月末

発行：令和5年3月末

②掲載内容

紀要：センター事業に関連する研究論文等、各分野の総論

年報：キャリア研究センター実施事業報告、研究員紹介

2. 会議の開催

(1) センター会議

キャリア研究センター規程第3条に定める事業に関する事項を審議するため、センター会議を年2回開催します。

○第1回センター会議

日時：6月予定

場所：高田短期大学第4会議室

議題：令和3年度事業実績報告、令和4年度事業計画報告

研究会：テーマ「介護・福祉における災害での現状と課題」

講師：キャリア研究センター 福田 洋子 研究員

○第2回センター会議

日時：令和5年1月予定

場所：高田短期大学第4会議室

議題：12月までの実施報告、令和5年度事業計画の審議

研究会：テーマ、講師検討中

(2) 運営委員会（月1回程度）

センター規程第10条に定める事項について審議、決定するため、センター長、主任研究員、運営委員による運営委員会を月1回程度開催します。

介護福祉研究センター

介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献、連携をめざし、地域福祉に寄与するために令和4年度は以下の事業を計画しています。

(1) 介護福祉セミナーの開催

○地域の方や卒業生を対象とした講座を予定

日時：12月18日（日）13:30～15:30

テーマ：ミュージックセラピー～聴いて感じて、リフレッシュ～

講師：長谷川 恭子 研究員、杉本 佳代 氏（ソプラノ歌手）

(2) 介護職員キャリアアップ講座の開催

- 介護職員を対象とした講座の開催

会場は地域の福祉施設とし、施設の介護職員に参加を呼びかけます。

(3) 定例研究会の開催（場所：高田短期大学 介護福祉研究センター）

- 第48回定例研究会 7月開催予定 ○第49回定例研究会 9月開催予定
- 第50回定例研究会 11月開催予定 ○第51回定例研究会 2月開催予定

(4) 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

- 白子公民館との連携事業
- 一身田桜町地区との連携事業他

(5) 施設との交流事業

- 報徳園等との交流を実施予定

高田短期大学介護福祉コース学生ボランティアを中心に行います。

(6) センターボランティア学生組織「ふれんどえいむ」の連携強化

- 介護福祉コースの学生に呼びかけ、本センターの事業等にボランティアとして協力しやすい環境を整えます。

(7) 研究紀要の刊行

- 高田短期大学「介護・福祉研究」第9号を3月に発刊予定

(8) 他団体との連携

- 全国障害者問題研究会との連携
- 三重県文化会館との連携

(9) 第3回介護のみらいを考えよう作文コンクールへの協力

大学側と連携して作文コンクールの企画運営を行い、若い世代の人々の介護への関心を高めます。受賞者の作品を「文集」として発行し啓発します。

(10) 会議

- 運営委員会 場所：本学介護福祉研究センター 月1回開催
- センター会議 場所：本学介護福祉研究センター 年2回（前期6月、後期12月）

その他

令和4年度 短期大学施設設備の整備計画

(単位:円)

事業名	事業規模	事業費	実施時期
1号館空調設置工事	各教室・事務所	68,900,000	8月
合計		68,900,000	

高田中・高等学校

1、命の尊さ考える教育推進事業

仏教教育に基づく宗教的情操の涵養をめざし、週1時間の仏教の授業や月々の本山参詣、仏教講話などを実施することにより、豊かな人格形成と心の成長をうながし、生徒ひとり一人に命の尊さを自覚させるよう努めてまいります。

2、きめ細やかな学習指導推進事業

中学校では令和3年度より学習指導要領の改訂が全面実施となり、令和4年度からは高等学校でも年次実施が始まります。これに対応した授業を展開するため、教科毎及び教科を横断した形で今後の学習指導内容を検討・改善し、学習指導の充実をはかります。個々の生徒の主体的・対話的で深い学びの実現と学力の3要素の構築をねらいとし、きめ細やかな個別指導や反復学習などを行い、中学段階と高校1年生での基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指した学習指導を展開します。

また、2年目を迎えた大学入試共通テストの検討・分析を行うとともに、カリキュラム・マネジメントおよびカリキュラム開発を重ね、「総合的な探究の時間」を含めた綿密な学習指導の拡充に向けた研究活動を行います。

3年コースの特選およびⅠ類・Ⅱ類各進学クラスではそれぞれの教育目標に合わせた特色ある指導のもと、生徒が自己の将来を見据え、その目標に向け研鑽を重ねること、社会貢献を目指し、協調性と奉仕の精神を併せ持つこと、深い思考に基づいた自己表現ができることを主眼に基礎学習から発展的学習へと進めていきます。

また、6年コースにおいては、中学1・2年次は基礎学力の定着、3・4年次はキャリア教育の推進、5・6年次は大学入試に向けた進学指導を目標に6年間の継続指導を行っていきます。いずれも、生徒たちの希望を実現した出口保証を目指しています。

ICT教育では、令和3年度は中学1年を対象に、令和4年度は中学1年及び高校1年を対象に一人1台の端末を導入し、オンライン学習やリモートによる授業など、その推進に力を注ぎます。また、他の学年においてもプロジェクターや電子黒板の利用の活性化・円滑化をはかるとともに、Google Workspace for EducationやClassi、学年に応じてClassiNOTE、スタディ・サプリ・English等を用いて、個々の学力到達度に応じた指導や学習習慣の徹底をはかるとともに、学習への興味関心を引き出し、学力の伸長を目指します。

教育支援の観点からも、精神的・内面的、社会的支援でも細やかな指導を行っていきます。担任や学年を単位とした面談や教科担当者会議、アンケート調査、さらにカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの同席による教育支援委員会での意見交換などで情報を共有するとともに、家庭との連携を密にして、新型コロナウイルス感染症対応における生活不安などにも対処し、生徒支援に努めます。

3、キャリア教育推進事業

現代社会の多様性に即応すべく、コミュニケーション能力や自己発信能力など社会人として働くうえで必要とされる能力の修得に努めるとともに、5Gなどのデジタル技術の革新による社会の激しい変化に対応し、生き抜くために主体的に自己の進路選択ができるように教育活動を展開していきます。

コロナ禍において困難を強いられるなか、数少ない職業体験や講習会などの機会を通して生徒それぞれの内面の成長・発達を促すことで漠然と抱いている夢や希望を明確にして将来の人生プランへと繋がるように、学ぶことや働くことへの意欲や目的意識を醸成し、将来社会人としての自己の適正・能力をよりよく生かしていく基盤を構築すべく、多種、多面的な事業の推進・発展をはかります。

4、生徒会活動の推進

新型コロナウイルス感染症対応による様々な活動規制が本年度も継続されると思われませんが、中高ともに、生徒会が中心となって、学校の諸行事の企画を計画から実行へと展開することを通して、生徒との連携を深め、友情の輪を広げるとともに、ひとり一人の自主性・公共性・協調性を高めることを目標に、活気ある学校づくりをめざしていきます。高校の生徒会内に執行部の外に企画運営委員会、生活委員会、環境委員会、安全推進委員会を設置し、生徒の主体的な活動を展開しています。また、いじめ反対の意思表示をするピンクシャツ運動も生徒会主体で行っています。

5、部活動の推進事業

新型コロナウイルスの感染が全世界に拡大し未だに収束の状況ではありませんが、全国大会などのクラブ活動における大会はほぼ予定通り行われました。東京オリンピック、パラリンピックも制約はあったものの開催されました。ただ、三重国体が中止され、本校でも県の代表選手に選ばれている生徒たちがいましたので、参加することができず非常に残念な結果となりました。このような状況はこれからも続くことが予想されますが、学校としては、できる範囲内で教育活動の一環としてバックアップする必要があると考えています。クラブ活動は生徒ひとり一人の興味や関心によって自由意志で参加し、心身の健康増進や豊かな教養を養い、自主的な集団生活を行うことを目的としています。また、自身の体の育成、高い技術を習得することを目指し継続的にクラブ活動を行うことは、人間形成にも大きな影響を与え、より楽しく豊かな学校生活を送ることができるものと考えられます。

施設の整備や、備品の補充など満足のある活動ができることにより、技量のレベルアップをはかり、先は高田中・高等学校の名を全国に広められるよう努めてまいります。また、優秀な成績を収めたクラブ活動においては学校内外に公表することで文武両立を目指す幅広い学校活動を示していきたいと思えます。文化系、運動系それぞれの部活動で優秀な生徒の育成を目指していきます。

6、危機管理・安全教育への取り組みの推進事業

自然災害の発生に対する危機意識と防災意識を高め、地震等の自然災害に対して、まず自己の命を守り、次に身近な人を助け、さらには地域に貢献できる防災教育に取り組んでいきます。

年度当初には津波対応、秋に緊急地震速報対応の避難訓練を行うほか、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、地域住民や消防署等と協力を行うことで一体となった避難訓練も例年実施しています。このほか、防災用の備蓄品として、障害者施設が携わっている「白い小箱」を入学時に購入し、卒業時には「白い小箱運動」に賛同を得て他の事業所や海外にこれを寄贈しています。

また、SNS等によるトラブルは例年わずかながら発生しています。ソーシャルメディアの発達とその使用、利便性により凶悪なサイバー犯罪に巻き込まれないように生徒のみならず保護者

に対しても常日頃から安全教育への意識を高めるとともに、犯罪防止の徹底に努めたいと思います。SNSやLINEでのトラブルの発生を未然に防ぐため、その利用について講習会・講演会を開くとともに、携帯電話ではフィルタリングの徹底をはかることを推進しています。

さらに、交通安全については、自転車通学生に対して、交通事故から身を守るためのルールを身につける教育と専門家による体験型教育を実施するなど、安全の必要性を訴えていくほか、万一のために保険に加入することも奨めています。

7、国際理解教育推進事業

オーストラリアのセントモニカ校・パレード校との姉妹校間で実施している交換留学は、本年度で30回目を迎えるところ、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対応のため中止となりました。本年度もその実施が危ぶまれておりますが、生徒の国際理解と国際協力への意識を高めるための教育活動は形を変えて実施していく必要があります。

7月に実施している生徒の学力強化に向けたイギリス語学研修も本年度の実施は難しいと思われるので、語学研修の機会も新たに模索する必要があります。スタディ・サプリ・English等を利用した基本的な英語力、英会話力の強化に努めるとともに、イングリッシュキャンプ、エンパワーメントプログラム、イングリッシュフェスティバルの開催、各種コンテスト・コンクールへの参加、教科横断型の授業、Web学習サービス、オンライン留学システムの活用など、様々な角度から国際理解教育を推進していきます。

8、教職員海外研修推進事業

教員のスキル向上と、教職員の国際感覚を深めることを目的とした教職員の海外派遣は必須ですが、昨年度も実施できる状況ではありませんでした。本年度は研修が行われることを強く希望しますが、新型コロナウイルスの感染状況が収束しない場合は昨年度と同様にZoomなどWebでの研修や講演会への参加、ネイティブの教員によるスキルアップ研修会などで教員の資質向上をはかりたいと考えています。

9、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業

生徒による「授業アンケート」や「学校自己評価」を実施し、教員自らが学校及び自己を評価し、学校全体としての現状を把握するとともにその改善に役立てていきます。また、学校関係者評価委員による外部評価の結果を真摯に受け止め、健全な学校づくりに努めていきます。

生徒や保護者のみならず、地域社会の信頼のもとに築かれる私学であることは、これからの社会において、また学校経営において特に重要であると捉えています。

10、新任教職員研修事業

新任教職員に対して、いろいろな分野から10項目に分けて校内新任研修を行い、その中で建学の精神を学び、それを実践していくことや学則や学苑規程を理解することで、教員との交流により一日でも早く自立活動ができるよう資質向上に努めています。これからも校内だけでなく学外研修にも積極的に参加し、その研修内容を教員間で共有することにより、生徒への還元率が高くなると考えられますので積極的な取り組みに努めていきます。

1 1、生徒募集推進事業

少子化と公立高校の授業料無償化に伴い、生徒募集と私学運営は厳しい状況下であり、いかに受験生やその保護者の方から安心と信頼を得て選ばれる学校にしていくかが重要です。各中学校訪問、学校説明会などを通して本校の魅力を紹介した生徒募集活動に取り組みます。

また、卒業時の生徒の充足感や進路実績が生徒募集や学校の魅力にも大きく影響を与えるので、その成果を上げるために、日々各人が自主的に学習意欲を向上させ、生き生きとした学校生活を過ごすことができる環境作りをめざしています。

インターネット等のメディアを活用し学校紹介を行うなど外部への情報提供を積極的に展開し、受験生に対し、在校生が伸び伸びと学業、部活動などに精進、活躍している姿を可視化する広報活動を展開していきたいと思います。

また、本校に興味のある生徒が直接来校できる高校での学校見学会、個別見学会、中学校での学びの広場などのイベントもより一層の充実をはかっていきたいと思います。

1 2、その他

令和4年度 中・高等学校施設設備の整備計画

(単位:円)

事業名	事業規模	事業費	実施時期
グラウンド整備	東西グラウンド	4,000,000	令和4年度中
校舎清掃	全校舎	3,300,000	令和4年度中
ビル総合管理契約	全校舎	2,300,000	令和4年度中
ガス空調機保守点検		2,000,000	令和4年度中
樹木剪定		2,200,000	令和4年度中
グラウンド排水路土砂撤去		1,600,000	令和4年度中
ガス空調機フィルター清掃		1,000,000	令和4年度中
体育館空調設置工事	第1・第2・第3体育館	318,000,000	令和4年度中
第1体育館女子更衣室改修		3,173,500	令和4年度中
防犯カメラ設置工事	中高敷地内	4,491,080	令和4年度中
合計		342,064,580	